

「岩手・宮城内陸地震から学ぶ会」を開催

～宮城県沖地震に備えて～

釜石地方振興局土木部



1月20日、釜石地方振興局庁舎で『岩手・宮城内陸地震から学ぶ会～宮城県沖地震に備えて～』を開催しました。宮古、釜石、大船渡の3振興局共催で行ない、3地域の自治体の土木関係職員や建設業協会会員など約100名が参加しました。

今後10年間での発生確率が60%から70%に引き上げられた宮城県沖地震に備えるため、実際に一関で岩手・宮城内陸地震に対応された方々を講師に招き、地震の被災状況と当時の対応について報告していただきました。

自治体と建設業協会との災害時協定や災害訓練などの事前の備えが、今回の災害で生かされたことなど、大規模災害に対する危機管理を考える上で貴重な情報を得ることが出来ました。

[講演内容]

①岩手宮城内陸地震における土木施設災害のメカニズムと災害復旧

(講師： 株式会社復建技術コンサルタント 有馬久伸 様、奈倉弘 様)

- ・ 国道342号の祭時大橋付近は細い尾根が突き出した形をしており地山全体が崩落したようだ。沿岸地域は粘板岩などでできた古い地層で、地山全体がまとまって動くことはなく、内陸地震とは違う破損状況が想定される。

②自治体の危機管理と災害復旧体制

(講師： 一関市役所建設部 維持課長 五十嵐正一 様)

- ・ 被災直後に職員を「パトロール」「電話対応」「災害対策本部」の3つに区分して対応。多くの情報を的確に集約し、次の手立てを判断することが重要だと痛感。ヘリコプターは大変役立つが、ヘリポートの確保に苦労した。

③地域と共に生きる建設業 ～岩手・宮城内陸地震への対応について～

(講師： 社団法人岩手県建設業協会一関支部 支部長 宇部貞宏 様)

- ・ 「災害時における協定」に基づく対応などについて説明。各社が担当区域を巡回して道路や河川を点検したことや、復旧対策の協力要請に応えられるよう、いち早く態勢を整えたことを報告。